

様式第1号

会 議 録

会議の名称	平成30年度第1回所沢市いじめ問題対策委員会
開催日	平成30年4月26日(木) 13時30分から15時
開催場所	所沢市役所 602会議室
出席者の氏名	川地 康子・菅野 純・小林 治・小林 ヒデ子・笹島 千代子 長尾 由紀子・山崎 雄一郎・齋藤真希子・島 吉孝・武弓 清貴
欠席者の氏名	赤堀 侃司・桂川 泰典
議 題	○協議 (1) いじめ問題対策委員会について (2) 所沢市教育委員会の生徒指導、教育相談について (3) 所沢市の児童生徒のいじめ、不登校、暴力等について (4) その他 ○報告 市内中学生の踏切事故について(非公開)
会議資料	次第 平成30年度所沢市いじめ問題対策委員会委員名簿 いじめ防止対策推進法 所沢市いじめ問題対策委員会条例 所沢市の現状について 所沢市いじめ防止基本方針 所沢市いじめ対応マニュアル
担当部課名	教育委員会 教育長 内藤隆行 学校教育部 部 長 岩間健一 学校教育課 課 長 戸村達男・主 幹 中田利明 副主幹兼指導主事 石原 健・指導主事 伊東真吾 指導主事 荒井恵美 安全安心対策推進員 内野正行 安全安心対策推進員 平塚俊夫 安全安心対策推進員 山口勝彦 生徒指導・いじめ問題対策員 関根秀実 教育センター教育相談室長 大庭真紀子 指導主事 坪井 健(欠席) —連絡先— 学校教育課 04-2998-9238 教育センター 04-2923-2396

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
教育長	委嘱状の交付
主幹	開会
教育長	挨拶
各委員・事務局	委員自己紹介並びに事務局紹介
委員	委員互選による委員長、副委員長の選出
委員長	委員長：菅野委員 副委員長：武弓委員 に決定
委員長	会議の公開・非公開：協議（１）～（４）については公開とする。報告については個人に関する情報が含まれており、非公開とする。
委員長	会議録の記録方法：要約方式とし、発言者名は非公開とする。
委員長	会議録の確定方法：委員長の承認により確定する。
委員長	以上のことを承認されたい。
全委員	承認
委員長	○協議
委員長	議題（１）～（３）までを事務局より一括して説明し、その後、質疑応答及び協議とすることを確認
事務局	<u>議題（１）いじめ問題対策委員会について</u>
事務局	資料に基づき、「いじめ防止対策推進法」「所沢市いじめ問題対策委員会条例」「所沢市いじめ問題基本方針」に基づき、全職員で組織的に対応している旨について説明。質疑はなかった。
事務局	<u>議題（２）所沢市教育委員会の生徒指導、教育相談について</u>
事務局	スライド資料に基づき、本市の取り組みの体制について、様々な機関との連携（特に福祉が必要な家庭についてはスクールソーシャルワーカー等）を説明。
事務局	教育センターにも教育相談室があるが、健やか輝き支援室でも電話１本で専門家を含めたチームが迅速に対応していることを説明。質疑はなかった。
事務局	<u>議題（３）所沢市の児童生徒のいじめ、不登校、暴力等について</u>
事務局	資料に基づき、具体的ないじめの認知件数、解消件数も含め所沢市の現状について説明。専門家を含めたチーム（１７名）で迅速に対応し、電話１本でスタッフが巡回していることや健やか輝き支援事業についてもふれる。
事務局	暴力行為については対教師暴力、生徒間暴力、対物があるが、男子生徒が

事務局	<p>多く、些細なトラブルから同じ子どもが繰り返し行うケースが多い。 いじめについては、どの学校もいじめへの認知が高まり、認知件数がふえた。また、解消率についての定義が変わったことにも触れる。</p>
事務局	<p>不登校については小学校では高学年が多く、中学校では中1よりも中2が多い。安心して力が発揮でき、自己存在感、自己肯定感が得られるよう、また、新たな不登校を生まない取り組みをしている。</p>
委員	<p>中2になって不登校が多くなる原因は何か。</p>
事務局	<p>学校生活への困り感から生まれる。</p>
事務局	<p>中1ギャップの解消に学校側も取り組んでいる。</p>
委員	<p>暴力行為を同じ子どもが繰り返す理由は。</p>
事務局	<p>多くの場合、言葉で上手く表現できないことが原因であり、繰り返してしまうこと、表現力を高めることが課題であることを説明。</p>
委員	<p>中3の不登校の子のその後の進路は。</p>
事務局	<p>追跡調査はできていない。かつては進路が確保されていなかったが、最近では様々な受け皿ができた。中には高校はがんばり、大学まで行って教員になったケースもある。</p>
委員長	<p>私がスーパーバイザーをしている学校は40%進学している。</p>
事務局	<p>中学校卒業後の追跡調査は行っているが返信が来ない。手帳を持っていない限り、繋がっていかないことが多い。</p>
事務局	<p>18歳までは児童福祉法の対象となり、18歳を過ぎると両親に経済力があると自分の部屋で過ごすケースも多い。本市では「こどもと福祉の未来館」を立ち上げた。</p>
委員	<p>暴力行為が増えているのが気になる。 コミュニケーションのトレーニングをするのが大切。どうしたら怒りの感情を鎮められるのか、教育の現場で行ってほしい。</p>
事務局	<p>小学校では3～4年で増えている。日頃の関係の中で、つい手が出てしまうこともある。市教育センターでもSSTやアサーショントレーニングの研修を行っているし、各学校で授業の中でも取り入れている。</p>
委員	

<p>委員 事務局</p>	<p>言葉の力が落ちたと思う。1つ伝えるにも言葉が足りない。家庭でもそうした状況を理解する必要がある。また、引きこもりで病院に運ばれてきた人の中には食べていない人もいる。書くことが苦手なのかと思ったら、それほどでもなく、時間をかければよく書ける。</p> <p>いじめ問題の撲滅キャンペーンを所沢でも行ったらどうか。</p> <p>所沢市では11月を強化月間と定めている。全ての学校がそれぞれの実態に即した取り組みを行っている。</p> <p><u>議題（4）その他</u> 今後の予定について確認。 ○報告 市内中学生の踏切事故について</p> <p><報告については所沢市情報公開条例第7条第2項により非公開></p> <p>閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-------------------	--